

伊丹市議会議員 **おおつる 求** の活動報告

みんなちがって、 みんないい



「アイホール活用問題」で揺れる伊丹市

自治体が文化施設を持つ意味を市長に問う

「文化施策の独立採算制は非常に困難。税金活用は自治体の役割。」

運営経費削減のため、演劇ホール（アイホール）事業を手放したい市は、民間事業者への働きかけを続けている。そこで自治体が文化施設を持つ意味や、「税金をつぎ込むのは無駄」という風潮を市長に聞いた。

【質問】自治体が文化施設を持つ意味は？

[市長] 文化は、豊かな生活に欠かせず、市民の身近にあるべきもの。多くの文化に触れることで、豊かな暮らしが創出され、自ら文化活動を行うことで充実した生活が送れる。

【質問】「税金をつぎ込むのは無駄」なのか？

[市長] 文化施策の独立採算制は非常に困難。市民福祉の向上のため文化施策に税金を活用することは自治体の役割。一方、効果的な財源運営で市民サービスを提供することも自治体の使命。説明責任を果たし、成果をあげて市民理解につなげたい。

本市は文化施設が充実しているが、十分に活用されていないと思う。文化施策や、文化を活用した街づくりは「市の役割」だが、市を動かすのは、私を含めた「市民」。その視点が欠けていたのかもしれない。

演劇を活かした街(私案)

演劇ワークショップ

- *介護予防・地域福祉増進
- *学校園ワークショップ授業

子ども

- *演劇鑑賞できる機会提供
- *舞台を使用した表現活動
- *子どもの居場所機能

地域・市民

- *IF エントランス常時開放
- *公開リハーサル
- *多世代交流の場として

生涯学習

- *シルバー劇団の設立

ブランド化

- *演劇をツアーコンテンツに



市民とともに演劇を活かした街づくりを

財政面から考えると、価値が高い文化施設であっても、市民や地域と連携しないと生き残っていけない、という現実を突き付けられた今回の問題。アイホールが30年間蓄積してきた財産を活かした街づくりを市民とともに進めていこう、と提案した。

コロナ禍の 2020年度

2020年度は、新型コロナウイルス感染症（新型コロナ）がまん延し、緊急事態宣言や一斉休校、三密回避、ステイホーム、イベント自粛、テレワーク等、私たちの生活は「コロナ色」となった。そんな中で公営企業の状況はどうだったのか。

伊丹病院

コロナ患者受入れて奮闘

昨年10月、県の「兵庫県認知症疾患医療センター」に指定された。コロナ禍による受診控えにより、年間患者数は入院で13125名（12%）減少、外来患者で8397名（0.4%）減少した。また、コロナ患者受入れのため、1病棟（50床）をコロナ病棟（10床）にした。一般病棟は委託業者に消毒作業をお願いしているが、コロナ病棟の消毒作業は看護師がおこなう必要があり、大変な一年だった。経営的には、国や県の補助金が入ったため、赤字に陥らずにすんだ。



尼崎ボート

電話投票で収益大幅増



例年通り、市主催レースを56日開催。4～5月は、無観客開催や場外発売所の休業などがあったため、舟券売り場での売上は減少した。一方で近年激増しているのが電話投票。20～40代を中心に、スマートフォンによる電話投票が大幅に増えた（約39億円）ため、舟券収入全体では前年度と比べて約16億円増えた。そのため、今年度のモーターボート競走事業から市一般会計への繰出金は3億円の予定であったが、5億円追加。合計8億円となった。

市営バス

休校・テレワークで乗客激減

初めて「緊急事態宣言」が発出された4～5月、通勤・通学が激減したため、市営バスの運賃収入は、前年同月比で約半分まで落ち込んだ。交通局は全車両（93両）に抗菌・抗ウイルス施工し、車内換気を徹底したが、2020年度運賃収入は、前年度に比べて約3億8千5百万円減少した。この事態に対し交通局は、車両更新（6台）の凍結、昼時間帯の便を減らして経費を圧縮した。また市は運行支援金として3億円を交通局に拠出したため、約6千5百万円の赤字で留まった。コロナが収束しても、仕事のテレワーク化などにより、コロナ前の乗客数に戻るには難しいと思われ、現在経営計画を練り直している。



9月議会 アレコレ

3月議会に続き、新型コロナ感染急拡大のため書面質問になった9月議会。
その中から、気になるテーマをピックアップしてご報告。

市独自の個人事業主等への支援金事業

コロナ禍の影響で売上に影響が出たにもかかわらず、県や国の協力金や支援金の対象外とされた「市内個人事業主」又は「小規模企業者」に対し、市独自の支援金給付事業が行われる。支給額は10万円（一度限り）。

昨年12月から今年11月の売上が前年又は前々年同月と比較して20%以上減少していることが条件。11月中旬から申請受付を始める予定。



普通教室への改修工事、はじまる

2024年度から小学5年、2025年度から小学6年で35人学級が始まる。推計の結果、必要な普通教室が増加する学校では、コンピューター室などを改修工事して普通教室を確保することになった。

今年度は3校（南小、花里小、稲野小）の改修工事をおこなう。

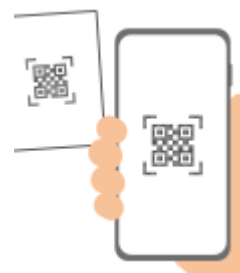
来年度は2校（伊丹小、笹原小）で工事をおこなう予定。

2回目のキャッシュレス決済ポイント還元事業

市内店舗でQRコード決済をした場合、購入金額の20%（上限 5,000 円）ポイント還元するキャッシュレス決済ポイント還元事業。

今年9月に実施されたが、再度、来年1月頃に実施する予算が可決された。ただ、スマホのQRコード決済を利用する方に限定された施策であることや、特定事業者に対し、多額の税金を使うことに違和感を覚えざるを得ない。

一方で、市内経済活性化の一助になることは否定できず、悩ましい。



伊丹駅周辺の音声誘導装置を更新

阪急「伊丹」駅、JR「伊丹」駅周辺に、2000年から順次整備・設置された視覚障がい者用の音声誘導装置の故障が相次いでいる。

この度、当事者団体と協議の結果、視覚障がい者が駅周辺を歩行する際、迷いやすい通路の分岐点や横断歩道の前など、危険が伴うポイント11台を更新することになった。

フォト・ダイアリー ～日常の一コマ～



[写真説明 左上から時計回り]

- 森山まり子さん（日本熊森協会）の話を聞く。
「森を残し、全生物と共存しなければ人間も生き残れない」
- 建設従事者の組合・阪神土建労組の対市交渉。
- 稲野自治会の防災訓練。
- 御願塚古墳のカモ。心が安らぐ時間。
- アイホールの照明・音響・客席・舞台などを見学。



「ギフテッドの個性を知り、伸ばす方法」発売



ギフテッドの子どもを持つ親のグループ「ギフテッド応援隊」が、2つの章を担当した本が、11月中旬に小学館から発売。ぜひ、ご一読を。

市政に対するご意見や疑問、お聞かせください。困ったこと、悩んでいること、一緒に考えましょう。

大津留 もとむ
伊丹市議会議員 おおつる 求

[電話] 090-8122-7114 [Web] <http://ootsuru.com>

【プロフィール】1971年福岡県大牟田市生まれ。稲野町在住。
 ■近畿大学法学部法律学科卒 ■国際交流NPOスタッフとして「地球一周の船旅」参加 ■中川智子衆議院議員(前宝塚市長)秘書 ■建設従事者の組合・阪神土建労働組合書記局に入局 ■2015年の市議選に社民党公認で当選。2019年に再選、2期目 ■会派「フォーラム伊丹」 ■稲野自治会副会長 ■防災士

日々雑感

- 二人でじゃんけんする場合、パーを出す勝ちなやすい、らしい。数%だけ。
- 灼熱の東京オリパラを見て改めて、「アスリートファースト」ってなんだ？
- 初の蕎麦打ち。それもオンラインで。
- 公立学校共済組合と伊丹市が、近畿中央病院跡地活用について「回復期機能を有する民間医療機関への売却を実現するために、互いに協力」する覚書を締結した。大きな一歩、と評価。
- なるほど。ファーストジェントルマンになるよね。小説「総理の夫」を読んで。
- 「障害者と交流？僕はふれあい動物園じゃない」車いすの少年はつぶやく。
- ボクがゴーヤを食べられるのは、毎朝働いているキミのお陰。ペランダのハチ。
- 高次脳機能障害と現代社会を考え、遡っていくと三池CO問題に繋がった。ドキュメンタリー映画「いのち見つめて」。11月完成。映画制作って奥深い。
- このニュース、今回25号と書いたが、23号がダブっていたので今回は26号。